

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

このたび、下記検査項目の検査項目におきまして、委託先より、報告書の様式を変更する旨の連絡がありました。

取り急ぎのご案内となりますが、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- 変更日 2018年 10月 1日(土) 検査結果発送分より
- 変更項目 (0840) MCIスクリーニング検査
- 変更内容 報告書の様式変更

※詳細につきましては、次ページ以降をご参照ください。

【報告書サンプル(変更後)】

表紙

SAMPLE

医療機関名 MCBクリニック
採血日 2018年5月1日
検査受診者ID MCB100000000001
氏名 MCB けん 様
ID: Y000000X

発行日 2018年〇月〇日
株式会社MCBI

MCIスクリーニング検査結果

【注意事項】判定結果をご覧になる前に必ずお読みください。

本検査は、血液中の特定のタンパク質を調べることにより、アルツハイマー型認知症(アムンハイマー病)の前段階である軽度認知障害(MCI)のリスクを統計学的に調べるものです。
早期に発見するためのスクリーニング検査ですので、本検査の判定結果で診断が確定するものではありません。

・本検査の血液中のタンパク質量は、栄養状態が悪い場合や自己免疫疾患など炎症性疾患において変動を認める場合があります。
・認知症の最大のリスクは「高齢」です。若年齢(40歳代まで)の検査結果についてはMCIとは異なる疾患による影響を考慮した評価が必要な場合があります。

検査結果(MMSE(ミニメンタルテスト検査)なし)

MCBI タロウ 様の検査結果

軽度認知障害(MCI)リスク判定

SAMPLE

判定	MCIリスク値	測定項目		
1 A	0.10	ApoA1	TTR	C3
		180 mg/dL	25.0 mg/dL	1.50 Unit

あなたは A 判定です。リスク値は 0.10 です。

MCIのリスクはほぼありません。今後も健康的な生活を心がけましょう。1~2年に一回の定期的な受診をお勧めいたします。ご自身の状態を定期的に把握して予防に努めましょう。

下の図は、健常もしくはMCIと診断された方の人数比(緑:健常, 黄:MCI)を表します。▲はあなたのリスク値です。▲上の線で、あなたのリスク値での健常もしくはMCIの人数比がわかります。

3

判定	基準値	説明
A	0.62未満	MCIのリスクはほぼありません。今後も健康的な生活を心がけましょう。
B	0.62~0.72	MCIのリスクは低めです。健康的な生活を意識して、MCIのリスクを減らしましょう。
C	0.72~0.82	MCIのリスクは中程度です。生活習慣を見直し、直ちに予防に取り組みましょう。物忘れなどで気になることがありましたら、専門医に診てもらいましょう。
D	0.82以上	MCIのリスクは高めです。専門医による詳細な検査・診断を受けられることをおすすめします。

<注意事項>
・本検査は認知症の前段階であるMCIのリスクを判定するものです。
・MCIの診断を行うものではなくリスクを判定する検査ですので、認知症予備に当たった1つの目安となります。
・MCIのリスク値は、測定項目の値を組み合わせにより算出します。測定項目の値は参考値となります。

検査責任者: ●●●●

検査結果(MMSE(ミニメンタルテスト検査)あり)

MCBI タロウ 様の検査結果

軽度認知障害(MCI)リスク判定

SAMPLE

判定	MCIリスク値	測定項目			MMSE
1 A	0.10	ApoA1	TTR	C3	30
		180 mg/dL	25.0 mg/dL	2.01 Unit	

あなたは A 判定です。リスク値は 0.10 です。

MCIのリスクはほぼありません。今後も健康的な生活を心がけましょう。1~2年に一回の定期的な受診をお勧めいたします。ご自身の状態を定期的に把握して予防に努めましょう。

下の図は、健常もしくはMCIと診断された方の人数比(緑:健常, 黄:MCI)を表します。▲はあなたのリスク値です。▲上の線で、あなたのリスク値での健常もしくはMCIの人数比がわかります。

3

判定	基準値	説明
A	0.4未満	MCIのリスクはほぼありません。今後も健康的な生活を心がけましょう。
B	0.4~0.5	MCIのリスクは低めです。健康的な生活を意識して、MCIのリスクを減らしましょう。
C	0.5~0.6	MCIのリスクは中程度です。生活習慣を見直し、直ちに予防に取り組みましょう。物忘れなどで気になることがありましたら、専門医に診てもらいましょう。
D	0.6以上	MCIのリスクは高めです。専門医による詳細な検査・診断を受けられることをおすすめします。

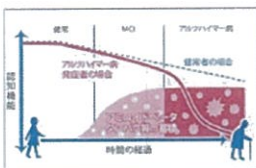
<注意事項>
・本検査は認知症の前段階であるMCIのリスクを判定するものです。
・MCIの診断を行うものではなくリスクを判定する検査ですので、認知症予備に当たった1つの目安となります。
・MCIのリスク値は、測定項目の値を組み合わせにより算出します。測定項目の値は参考値となります。

検査責任者: ●●●●

SAMPLE

◆軽度認知障害(MCI)とMCIスクリーニング検査について

- MCIは認知症ではありません。認知症になる前の状態です。MCIの段階で適切な介入を行えば、認知症の発症を予防もしくは遅らせることができることが分かってきています。
- 認知症で6~8割を占めるアルツハイマー病は、その原因となるアミロイドベータタンパク質(Aβ)が脳内に少しずつ蓄積することにより発症します。Aβは神経細胞にダメージを与え、記憶障害や認知機能の低下を引き起こします(下図左)。
- MCIスクリーニング検査は、Aβを脳内から排出したり、毒性を抑制したり、炎症を和らげるなど神経細胞へ与えるダメージを抑制する3種類のタンパク質の量を血液で調べることで、MCIのリスクを判定しています(下図右)。



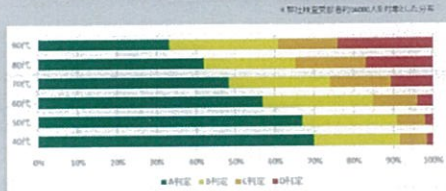
測定項目	標準的な範囲*	説明
ApoA1 (アポリポタンパク質A1)	140-195 mg/dL	ApoA1は、Aβの蓄積や毒性を抑制し、神経細胞の炎症を和らげることが報告されています。 ApoA1量の減少は、神経細胞の炎症を悪化させるといわれています。
TTR (トランスサイレチン)	21.9-33.8 mg/dL	TTRは、プレアルブミンとも呼ばれています。TTRはAβに結合して、その毒性を抑制します。 アルツハイマー病の他にも、うつ病や統合失調症などの精神疾患においてその量が低下することがあります。
C3 (補体第3成分)	0.99-2.86 Unit	C3は、ミクログリアという神経細胞の維持に働く細胞の活性化と密接な関係にあります。 C3の量は、Aβの蓄積や神経細胞の炎症状態を間接的に観察する指標になります。

*検査受診者約16,000人を対象とした平均値±標準偏差を標準的な範囲として示しています。一般の血液検査の基準値とは異なりますのでご注意ください。

SAMPLE

◆軽度認知障害(MCI)とMCIスクリーニング検査について

MCIスクリーニング検査における世代別判定結果の分布



- 加齢に伴ってA判定が減少し、D判定が増加します。
- 認知症は高齢になるほど発症のリスクが高くなる疾患です。年齢を重ねることで誰にも起こりうる身近な疾患といえるでしょう。
- 最近では糖尿病や高血圧、生活習慣病も認知症のリスク因子と考えられておりますので、若いうちから予防的に取り組むことが大切です。

生活習慣の改善が認知症予防に有効です

- 適度な運動
- バランスの取れた食事
- 質の良い睡眠
- 趣味を楽しむ



検査結果は予防のヒントです

健康な方でも高齢になるにつれてMCIや認知症のリスクは高まります。検査結果にかかわらず、生活習慣を見直し予防に取り組みましょう。健康診断と同じように、定期的に検査を受けることでご自身の変化に早い段階で気づくことができます。

【検査結果報告書改訂の概要】

① 検査値の記載について

MCIリスクの判定結果についてすべての検査値を示しました。これまでA、B、C、Dの4段階での判定結果の表記のみでしたが、判定・MCIリスク値・各測定項目の測定値を示しました。また、今回の改訂に合わせてMCIリスク値の表記方法を変更します。MCIリスク値は0.01~1.20の範囲について数字表記とし、範囲外は0.01以下もしくは1.20以上と表記します。

② 判定結果の解説欄を新設しました

ABCDの各判定によって解説文書が変わります。文書は以下のコンセプトで作成しました。

- A判定: 健康的な生活の維持、定期的な検査の推奨
- B判定: 予防の意識付け、定期的な検査の推奨
- C判定: 積極的な予防への取り組み、気になる方への二次検査受診の推奨
- D判定: 二次検査受診、診断の推奨

③ 解説グラフを変更しました

健常もしくはMCIと診断された方的人数比をグラフ化し、同グラフ上に検査で得られたMCIリスク値を示すことで、ご自分のリスク値において健常もしくはMCIと診断された方がどの程度いるか、直感的に理解できるようにしました。横軸に示す数値は、A判定とB判定の境界の数値としました。

④ MCIリスク値の基準値を示しました

判定の解説には、各判定におけるMCIリスク値の標準的な範囲を示しました。基準値は委託先における検査受診者約16,000人を対象とした平均値±標準偏差を標準的な範囲として示しています。一般の血液検査の基準値とは異なりますのでご注意ください

⑤ 検査の概要・検査項目についての解説資料を加えました(解説資料1、2)